

8706 スペイン大使は執務室のデスクに・・・

スペイン大使は執務室のデスクに肘をつき、両手の指先をぴったりと合わせてドアを見つめていた。大使はドアを見つめながら、あれこれと考えを巡らしていた。いったい老人はどんな資料を持ち込もうとしているのだろう。

午後一時ちょうどに、ドアが開いて一等書記官がはいって来た。大使は立ち上がり、書記官のあとについて来た老人に笑いかけようとして、一瞬頬をこわばらせた。老人は小柄な体を白い杖で支え、黒眼鏡をかけていた。

逢坂 剛：赤い熱気球

[許容訳例]

The Spanish Ambassador was resting his elbows on his office desk, waiting with his fingertips pressed tightly together, looking at the door. As he did so, he was pondering: what information was the old man going to bring for him?

The door opened at exactly one o'clock, and the First Secretary entered. The Ambassador stood up and was about to smile at the old man who followed the First Secretary, when his expression suddenly froze. The old man supported his small frame with a white walking stick, and had dark glasses on.

[翻訳例]

The Spanish Ambassador, his elbows resting on the desk of his office, his fingertips pressed together, was staring at the door. As he stared, his mind was working busily. What kind of information, exactly, was the old man going to bring him?

Precisely at one o'clock, the door opened and the First Secretary entered. The Ambassador stood up and was about to smile at the old man who followed the secretary into the room when, suddenly, his face went tense. The old man was supporting his small frame with a white stick, and wore dark glasses.

■スペイン大使は執務室のデスクに肘をつき、両手の指先をぴったりと合わせてドアを見つめていた。 (8706)

★「スペイン大使」は the Spanish Ambassador でいいでしょう。元の小説では、この「スペイン大使」とは「駐スペイン日本大使」のことですから、The Ambassador to Spain となるのですが、この日本文からは、そのことがわからないので The Spanish Ambassador とするしかありません。

★「執務室のデスクに」は on his office desk とか on the desk of his office など。his office desk は厳密に考えると、his office が desk にかかって「彼の office の机」という場合と his が office desk にかかって「office 用の〔に使うような〕彼の机」という場合がありますが、

実際問題としては、ここで使ってもいいと思います。

★ 「～に肘をつく」は rest his elbows on～ですが、「～に肘をついて」 という状態は have his elbows on～とか、(with)his elbows resting on～です。

★ 「両手の指先をぴったりと合わせる」は press one's fingertips together です。「合わせて」 という状態は、この表現を利用して(with) his fingertips pressed together となります。また、with の代わりに have も使えます。

★ 「ぴったりと」は tightly ですが press together と言えばその意味も入るので強いて入れる必要はありません、

★ 「～をみつめる」は look at ~とか stare at ~です。

◆ 「・・・していた」(過去時制か過去進行形か)

「～を見つめていた」ですが、ここは過去進行形を用いることになります。日本語の「・・・していた」は、英語では動作動詞なら過去進行形でなくとも過去時制でも表すことができます。その違いは、過去時制には状況を完結させる働きがあり、過去進行形は、期待させたり、不安にさせたり、同時に読者を現場に連れて行くという作用がありますが、それ自体には完結性がなく、したがって、過去進行形は必ず「状況を完結させる別の他の過去時制」(ここでは、「午後一時ちょうどに・・・した」という過去時制)と連動して始めて完結します。

● 「[連用形] + [連用形] + 主動詞」(動作順次)

「～に肘を [つき]、～を合 [わせ] ドアを見詰めていた」は「順次同時」ですから and を使って順々に結ぶことが出来ますが、「見詰めていた」を主動詞して、「スペイン大使は(執務室のデスクの上に肘をつき) (ぴったりと両手の指先を合わせて) ドアを見つめていた」のように、カッコ内を付帯状況 ((with)...+(with)...) にして日本語の {単位情報} 順に処理することが出来ます。

■ 大使はドアを見つめながら、あれこれと考えを巡らしていた。 (8706)

● 「ながら」(暫時同時)

「大使はドアを見つめ [ながら]」は So doing でも伝わりますが、[ながら] (暫時同時) には as を使うのが普通です。ここは As he did so とか As he stared (at it) の方がいいでしょう。

★ 「あれこれと考えを巡らす」は、そのまま訳すと ponder this and that ですが、これでは、いかにも余裕があって、たとえば、「瞑想にでもふけっている」といった感じになります。ここはそうではなく、もう少し忙しい感じだと思います。したがって、this and that をとるか、あるいは主語を his [the Ambassador's] mind にして work busily とするといいです。なお、「考えを巡らしていた」には was reflecting on this and that もありますが、これも「余裕があって、瞑想にでもふけっている」という時に使います。また think on はかなり文学的な表現で、会話ではありませんし、「何かの事柄 [起こったこと] について本当の意味を考える」というような場合に使います。

● 「・・・していた」(過去時制か過去進行形か)

「大使はドアを見つめながら、あれこれと考えを巡らしていた」も、上の「ドアを見つめていた」と同様に、過去進行形で *was pondering* として問題ありませんが、実は、ここでは二つの処理方法があります。一つは、上の場合と同様に「見つめながら」も「あれこれと考えを巡らしていた」も背景動作(*scene setting*)として過去進行形を用い、「午後一時に・・・した」を状況の完結(過去時制)として使うという処理方法です。もう一つは、主動詞(*ponder*)を過去時制(*pondered*)にする方法です。ここで過去時制を使うと、この時点での視点が変わって、大使の立場に移っていく感じになります。すぐ後に続く「いったい・・・だろう」という大使の気持ちの描写と呼応して *pondered* が一種の伝達動詞となるわけです。これは微妙なニュアンスを含む技法で、非常に難しいかもしれません。

■「いったい老人はどんな資料を持ち込もうとしているのだろう。(8706)

★「資料」は具体的な何かの書類などであれば *material* であり、無形の情報であれば *information* です。

★「いったいどんな資料・・・」の「どんな資料・・・」は無形なら *what (kind of) information* であり、有形なら *what (kind of) material* です。「いったい」は、辞書には *on earth* が出ていますが、これは、たとえば、*What on earth is he doing? (いったい何しているつもりだ?)* というように、かなり興奮したとか、憤慨したような言い方になり、ここでは *what* が疑問代名詞として用いられていないので *on earth* を入れる場所がありません。「いったい」は強いて訳すには及ばないと思いますが、訳すなら, *just what kind of ~か what kind of ~, exactly...* です。

★「持ち込む」は「部屋の中に持つて入る」(*bring in*)という意味ではなく。ここでの「持ち込む」は「彼(のところ)に情報を提供する」という意味ではないかと思います。それなら *bring (for) him* がいいでしょう。

★「・・・しようとしている」は *be going to...* でもいいですが、すぐそこまで来ているとするなら *be about to...* がいいです。

■午後一時ちょうどに、ドアが開いて一等書記官がはいって来た。(8706)

★「午後一時ちょうどに」は *precisely [exactly] at one o'clock* です。この場合 *at* を *precisely [exactly]* の前に出しても構いません。なお、*just* は**at just one o'clock* のように前置詞と一緒にには使いません。*just* は、たとえば、*What time shall we make it? ? --Just one o'clock.* のように使うものです。

●「・・・[て]・・・した」(動作順次)

「ドアが開い[て]～が入つて来た」は「動作順次」ですから *and* を使って *The door opened and ~ entered [came in]* ですが、「A して B した」ですから「A+to-Inf. B」で *The door opened to admit ~* という決まった言い方を用いることもできます。この *open* と *admit* はよく組み合わされて使われます。たとえば、*The door opened, admitting a shift of sunlight.* (ドアが開けられて、日の光がさっと差し込んだ) のように。

★「一等書記官」は *the First Secretary* です。

■大使は立ち上がり、書記官のあとについて来た老人に笑いかけようとして、一瞬頬をこわばらせた。 (8706)

★「立ち上がる」は stand up か、ちょっと casual ですが get up も使えます。

★「～のあとについて来た」は followed ~ (into the room) の他に came in after ~ でも構いません。また、entered in the wake of ~ も使えます。wake というのは「船の通った跡、航跡」のこと、in the wake of ~ で「～の後を追って；～に引き続いて」という意味になります。

★「一瞬」は、ここでは「一瞬の間」(for a moment) というより、「その途端」ぐらいに解して suddenly とすべきでしょう。

★「頬」は cheeks ですが、これでは可愛らしい感じで、ここではふさわしくありません。したがって his face とか his expression などにするといいでしよう。

★「こわばらせた」は froze でも間違いではありませんが、これはどちらかと言うと「身体がこわばる」ということに使います。went [became] tense (ひきつらせた) の方が、この場合に合いそうです。

●「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(書記官のあとについて来た老人)

「書記官のあとについて来た老人」は「連体修飾節 (書記官のあとについて来た) + 不定代名詞的体言 (老人)」ですから、英語では「名詞(the old man) + 関係詞節(who followed the secretary into the room)」です。

● {単位情報} 順に訳す工夫

「大使は立ち上がり、書記官のあとについて来た老人に笑いかけようとして、一瞬頬をこわばらせた」を「(大使は立ち上が [り]) (書記官のあとについて来た老人に笑いかけようと [して]) (彼は一瞬頬をこわばらせた)」の順序で処理するには、[り] は「動作順次」ですから and でつなぎます。次の [して] は「瞬時同時」ですから、また and も使えますが、when を使う方が自然の英語になります。つまり、「・・・しようとして・・・した」(was about to... when...) で、基本は「・・・していると・・・だった」(e.g. I was walking along the street(,) when I happened to meet him.) と同じです。

■老人は小柄な体を白い杖で支え、黒眼鏡をかけていた。 (8706)

★「小柄な体」は small body より small frame がいいです。body は「肉体」という感じなのにに対して frame はいわゆる「体のつくり；骨格」の意味合いで、たとえば、slight frame と言えば「華奢なつくり [体つき]」です。なお、build は抽象的な意味になり、his build と言うと the way his body is made という感じで、ここでは使えません。

★「白い杖で支えていた」は supported [was supporting] ~ with a white (walking) stick [cane] です。なお、was supporting にすると、何かが起ころうとしていたわけではありませんが、「大使が見た瞬間・・・であった」という vivid な感じが出ます。ただ、どちらかと言うと、やはり supported の方がいいでしょう。

★「黒眼鏡をかけていた」は had dark glasses on でもいいですが、どちらかと言えば wore dark glasses の方が英語として普通です。なお、黒眼鏡の「黒」は普通 black ではなく dark

を使います。